

Nami-Aru? / Internet

「Instant Karma!～悪いことは自分に返ってくる」

文：ジョージ・カックル

その日、七里ヶ浜の海は朝からサーファーたちが絶え間なく出たり入ったりしていた。波のサイズは胸から肩ぐらい。50、60歳を過ぎたベテラン・サーファーたちも楽しそうに沖でオシャベリを楽しんでいた、波に乗ったりしていた。海の中にいたほとんどの人たちは顔見知りで、われ先にと、ガツガツして波に乗っていくサーファーはいなかった。でも、1本の波に3、4人で乗ることもあった。そんななか、初心者レベルからなかなか脱けだせない僕のワイフは、気後れしていたのか“ぶつかりそうで、なかなか行けない”と悲鳴をあげていた。“ひいちゃえ、ひいちゃえ”といったのは、お茶目で人気の60歳を過ぎた顔見知りのサーファーだった。サーフボードが人にぶつかることなんて気にしないで行けっていうことなのだろう。彼は今でも年に数回、ハワイへ行くビッグ・ウェイバーだ。そんな彼は次の波に乗り、僕はその次の波に何人かで乗った。

そのとき、コンッと周囲に響き渡るような音を立てて、ひとりのサーファーのサーフボードが彼の頭の上を通り過ぎた。普通なら波の脇にそれて沖に出るのだが、彼は面倒臭かったのか、真正面から沖に向かっていった。波の真下を通過していた彼を避けきれなかったひとりのサーファーが、彼に向かって突っ込んでしまったのだ。ワイフが見たとき、彼のおでこは白くめくれあがっていたという。彼はひかれたのだ。砂浜に上がってもなかなか出血は止まらず、彼は友人たちにつきそわれながら救急車で病院に向かった。

僕はジョン・レノンの「Instant Karma!」という曲を思い出した。いいことも悪いことも、いずれは返ってくるといわれるのがカルマだが、今はインスタントな時代だから、すぐにでもことは起こると、ジョン・レノンは歌っているのだ。

その後、僕がその60歳過ぎのベテラン・サーファーに会ったのは、その事件から一ヶ月も経たない頃、ハワイの海だった。何十針も縫ったばかりのおでこに絆創膏を貼りながら、肩ぐらいのサイズの波を楽しそうに乗っていた。

George Cockle：音楽プロデューサー、DJ